



Japan
Food
Research
Laboratories

第 12055085001-01 号 page 1/5

2012年(平成24年)06月12日

試験報告書

依頼者 フジパスク株式会社

財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 シックシャツ80

表題 脱臭効果試験

2012年(平成24年)05月31日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

脱臭効果試験

1 依頼者

フジパスク株式会社

2 検体

シックシャット80

3 試験概要

検体についてアンモニア及びアセトアルデヒドの脱臭効果をガス検知管法により試験した。

4 試験結果

試験結果を表-1及び2並びに図-1及び2に示した。

表-1 アンモニアの試験結果

(単位 : ppm)

試料区分	経過時間				
	10 min	30 min	1 h	3 h	6 h
検体	23	12	9	7	6
空試験	100	100	96	85	80

初期ガス濃度 : 約100 ppm

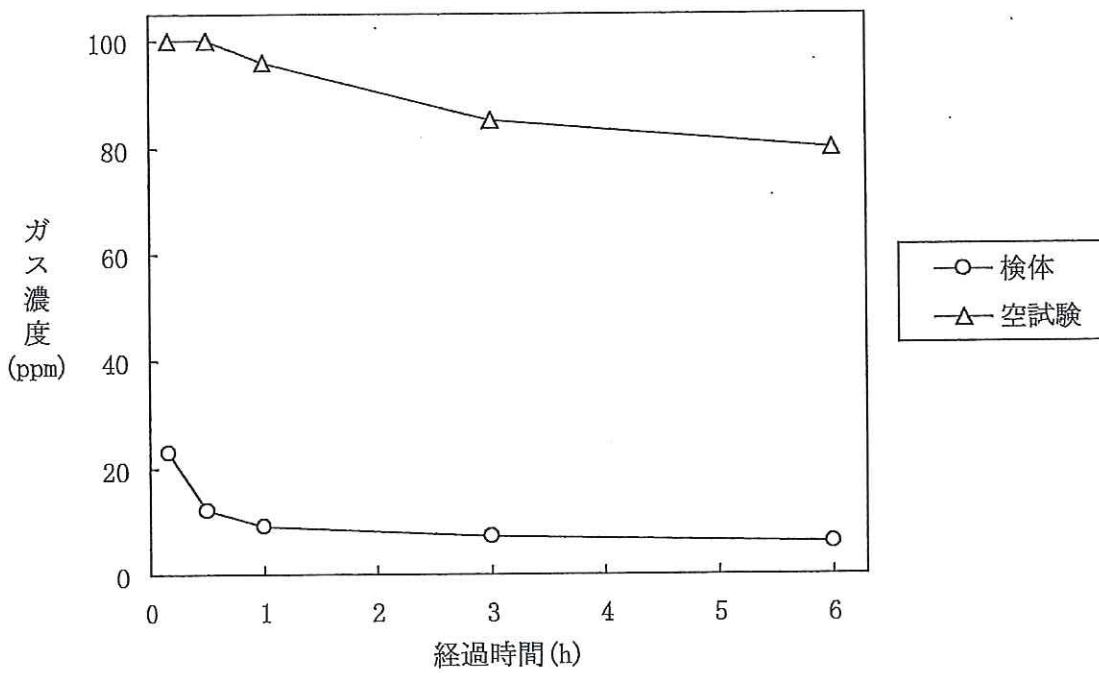


図-1 アンモニアの試験結果

表-2 アセトアルデヒドの試験結果

(単位 : ppm)

試料区分	経過時間				
	10 min	30 min	1 h	3 h	6 h
検体	14	14	12	12	8
空試験	20	20	20	20	20

初期ガス濃度 : 約20 ppm

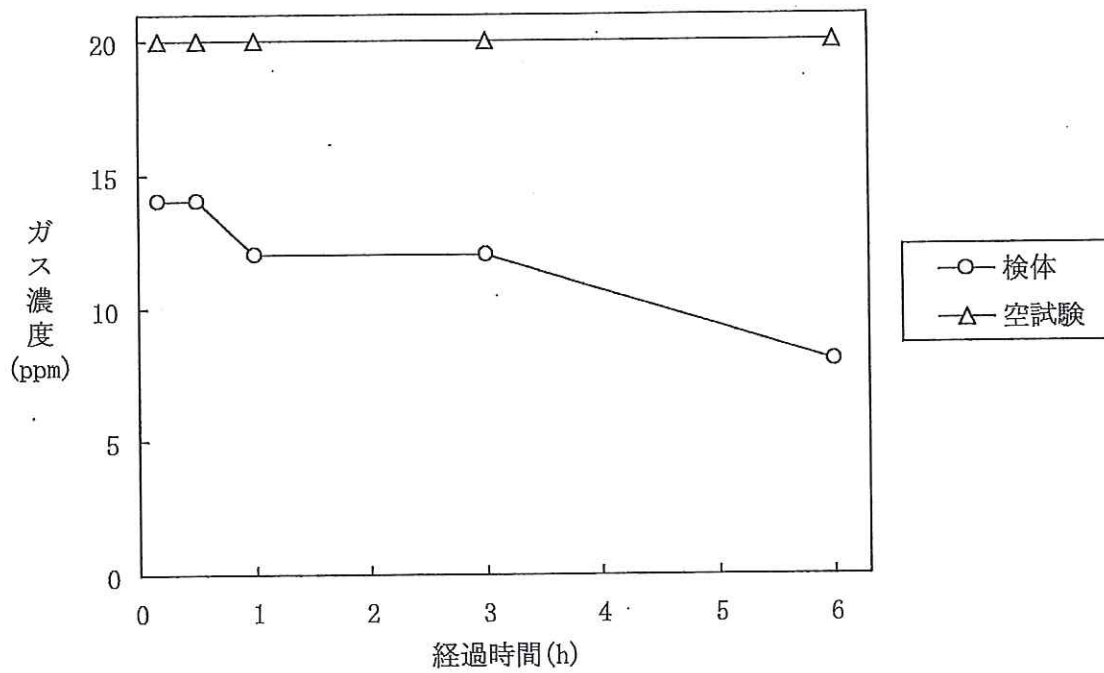


図-2 アセトアルデヒドの試験結果

5 試験方法

1) 試薬及び器具

におい袋 (35 cm×50 cm) [アラム株式会社]

アンモニア：アンモニア水 (28 %，特級) [小宗化学薬品株式会社] から発生させたガスを用いた。

アセトアルデヒド：アセトアルデヒド (一級) [和光純薬工業株式会社] から発生させたガスを用いた。

ガス検知管 [株式会社 ガステック]

2) 操作

検体をファンとともににおい袋に入れ、ヒートシールを施した後、空気 9 L を封入し、設定したガス濃度となるように試験対象ガスを添加した。ファンを作動させて静置し、経過時間ごとに袋内のガス濃度をガス検知管を用いて測定した。また、検体を入れずに同様な操作をしたものを空試験とした。

試験条件を表-3に示した。

表-3 試験条件

検体使用量	10回噴霧
試験対象ガス (初期ガス濃度)	アンモニア (約100 ppm) アセトアルデヒド (約20 ppm)
温度条件	室温
測定時間	10及び30分並びに1, 3及び6時間

以 上